

二子の渡しの歴史

■渡しの起源

二子と瀬田を結ぶ旧大山街道の渡し。始まりははっきりしていないが、元禄年間(1688~1703年)からあったらしい。江戸時代には大山詣りの参拝客などで賑わい、また相模地方の産物を江戸に送る流通経路としても利用された。一方で渡し場の権利を巡り、川崎側と東京側で争いが絶えなかった。

■渡しの権利

渡し業の所有権は時代とともに動いていた。

【元禄年間】————— 上丸子の所有

【天命8年(1788年)】——— 二子と瀬田の共有

【明治45年(1912年)】——— 瀬田の共有 ※神奈川県と東京府の境界変更による

【大正11年(1922年)】——— 二子などで「渡船組合」を作る。※組合員は乗船無料

■大正時代の渡し

【種類】 徒歩船と馬船

【大きさ】 1艘に牛車8台程度

【艘数】 2~3艘

【船頭】 2~3人 ときに4~5人で漕いだ

【渡し方】 兩岸にロープを渡し滑車をつけてたぐりながら渡した

【料金】 片道1人2銭、自転車5銭、荷車5銭 ※ちなみに「かけそば」の値段が当時一杯4~9銭程度



■渡しの廃止

大正12年(1923年)の関東大震災で東京からの避難民が大山街道を通ったことがきっかけとなり、二子橋の架設運動が活発化し、大正14年(1925年)に二子橋が完成した。そして同年、二子の渡しは廃止された。

■渡しの復活

平成23年(2011年)10月29日、二子の渡しの歴史を学び体験することを目的に、1日限定で復活。以降、毎年1回、1日限定で渡し体験ができるイベントを開催。

